

知事コラム 村井が走る



誰もが生きがいを持てる 社会を目指して

先日、公務の合間を縫って蔵王にある「はらから蔵王塾」を視察しました。「はらから」とは同胞という意味です。この塾では知的障害のある人を、農業や福祉分野で働ける人材に育てる事業をやっておられました。

心身上の理由などにより健常者のように働くことが困難な人に就労の機会を提供する施設の1人当たりの工賃(給料)の月平均は、宮城県内では1万8千円程度ですが、この「はらから蔵王塾」を運営する「はらから福祉会」で働く人々の工賃の平均は約5万円となっており、将来的には7万円(障害年金と合わせて15万円前後の生活費の確保)を目指しているそうです。

このように障害があっても働いて社会に貢献し、皆に感謝されながら報酬を受け取る社会こそが、誰もが充実した人生を歩むことのできる高福祉社会だと私は考えています。「はらから蔵王塾」は、人材を育てる事業ですから利益を生み出しません。しかし、武田理事長をはじめ社会福祉法人の皆さんの強い福祉理念・哲学によって事業をスタートさせました。宮城県は障害者雇用率が全国最低です。残念ながら大企業であるにもかかわらず法定雇用率に達していない企業も散見されます。こうした企業には「はらから福祉会」をモデルに福祉理念・哲学を持った経営に心掛けていただきたいと強く願ってやみません。

宮城県知事 村井 嘉浩

ストロベリーコーンズへのインタビュー

障害者雇用のきっかけは?

弊社の事業である「宅配ピザ」は、チラシのポスティング業務が業績を左右する非常に重要な業務であり、定期的に一定量のチラシを配布するための人手が必要となります。そこで、ハローワークからの紹介で精神障害のある方の雇用を始めました。雇用に当たっては、ハローワークの担当者と宮城障害者職業センター(※)の職員が親身にサポートしてくださりました。



中村取締役

※宮城障害者職業センターでは、職業相談・職業評価やジョブコーチ支援など障害者・事業主・支援機関それぞれに対して専門的な支援を行っています。

障害者雇用において配慮している点や留意点は?

通院日や体調がすぐれない日などは、無理なく勤務できるような柔軟な体制としており、他の社員にも理解してもらうことで、助け合う雰囲気が生まれています。また、一人一人の特徴を把握して、得意な業務、そうでない業務を見極めたり、仕事を理解してもらうための伝え方を工夫したりするなど、各店舗で人材育成に取り組んでいます。



社員の声

できることは何でもやってくれる。助かるというよりいいいと困る人材となっている

他の社員の模範となっている

個人の特徴や能力に合わせて仕事を任せれば必ず戦力になる

◎県雇用対策課
☎022(211)2772

障害者が働き活躍している企業がたくさんあります。障害者雇用のきっかけは企業ごとにさまざまですが、雇い入れに当たっては、ハローワークなど各支援機関がサポートしておりますので、一歩ずつ取り組み始めてみてはどうでしょうか。

県では、今後も継続して障害者雇用の促進に向けた取り組みを、宮城労働局などの関係機関と推進していくとともに、県民の皆さんへは、障害者雇用についてもっと理解を深めてもらえるように、普及啓発活動などにも取り組んでいきます。